

2024

新春号

朝日野総合病院 広報誌



「冬の雲海」阿蘇市（看護師 松下 竜太）

新年明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症が五類となつて半年が過ぎ、社会では、あの大変だった三年半が忘れられようとしています。振り返ってみますと、コロナ禍は、人と人の繋がりを大きく壊してしまいました。地域医療は、医療機関・福祉施設の機能分担と連携で成り立っています。これまで、国の医療政策もありますが、現場の努力により連携に極めて重要な「顔と顔が見える関係」が構築されてきました。コロナ禍の三年半は医療・福祉連携において最も重要な「顔と顔が見える関係」も壊してしまい、再スタートが必要な状態となつ

新年のご挨拶



野村 一俊
（整形外科）
病院長

医療・福祉連携は自施設だけの問題として捉えるのではなく、地域全体の医療・福祉資源を如何に活用して行くかの視点で構築していく必要があります。そして、その中で自施設の役割を明確にして取り組んで行くことが重要だと考えています。そのためには地域の医療機関、福祉施設の活動の実際をお互いに知る必要があります。その一つの場として平成二十四年に熊本市北区医療・福祉・介護ネットワーク研究会（熊本ケアネット）が発足しました。年四回開催され、地域の医療・福祉資源の共有と連携が推進され、熊本地震時でも大変役立ちました。コロナ禍でWEBとなり活動が停滞しましたが、やっと以前の活動に戻りつつあります。

猶予されていた医師の働き方改革が、二〇二四年四月から適用されます。既にその適用体制に入っており、様々な影響が出てきています。特に、医師の宿日直許可取得に伴う時間外

理念

愛する人を安心して任せられる
病院の創造

基本方針

- 患者中心の医療の提供**
患者の権利を尊重し、インフォームド・コンセントを徹底することにより、相互の信頼関係の確立に努力する。
- 患者サービスの向上**
病院の居住性・機能性を高め、接遇等の改善を通じ、心身ともに快適な受診や療養生活が送れるよう配慮する。
- 救急医療の充実、医療水準の維持・向上**
救急医療の充実を図りつつ、24時間365日の医療を提供する。また各診療科の医療水準を向上させ、高度医療を維持・推進する。
- 予防医療の展開**
健診業務を積極的に行い、生活習慣病診療科及び脳卒中診療科、総合リハビリテーションセンター、他各機能の充実を図り、生活習慣の是正等を啓蒙し、発病予防へと繋ぐ医療を展開する。
- 医療安全の確保**
医療安全対策・院内感染防止等の管理体制を充実すると共に、職員の安全衛生意識の高揚を図り、事故の未然防止に努める。
- 地域連携の強化**
地域の保健・医療・福祉連携を強化し、公開講座などを通じ、地域住民が健康で豊かな生活を送られるよう支援する。
- 経営の健全化**
医療の質向上や患者サービスの充実には、安定した経営基盤が不可欠であり、適正な収益の確保、費用の節減、事業執行体制の強化など、効率的な経営努力を重ねていく。

救急の制限は、これまで築き上げてきた熊本県の救急医療体制への大きな影響が懸念されています。これらの課題を乗り切るためには、これまで以上に地域の医療機関が連携し、地域の医療資源を十分に活用することが必要です。当院では、救急医療に於いても、これまでの連携への取り組みを強化し、出来るだけ影響が少なくなるように努力を続けております。

当院は、高齢社会の複雑化した医療ニーズに幅広く応えるべく急性期、回復期、維持期、緩和ケアの病棟を設置し、基幹病院、地域の医療機関、介護福祉施設と協力しながら救急から在宅に至る幅広い医療を提供出来るように努めて参りました。コロナ禍が一段落したら医師の働き方改革への対応と課題は山積していますが、これからも地域の諸機関と連携し、当院が地域で果たすべき役割を追求し、医療の質の向上に努めて参ります。

今年も引き続き、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



「天草の海岸」天草市（理学療法士 吉本 大佑）

新任医師の紹介

整形外科 総合リハビリテーション科医長

浦田 伸一



令和五年十月一日より、朝日野総合病院の総合リハビリテーション科に勤務しています。

出身地は天草です。日本医科大学を卒業後、整形外科にて研修、後に大学院にて研鑽、平成六年七月より、熊本大学整形外科教室に入局し、関連病院にて勤務しておりました。

当院では、整形外科のリハビリを中心に仕事をしております。今後とも、よろしくお願い致します。

緩和ケアWEB研修会を終えて

北8病棟 看護師長

宮崎 ともみ

令和五年十一月十六日（木）に当院主催の緩和ケアWEB研修会が開催されました。

院内外から百名程の参加があり、当院から「緩和ケア外来の紹介」と「がんサロンに関わる理学療法士として」を発表しました。

「緩和ケア外来の紹介」では、緩和ケア認定看護師より①緩和ケア外来の対象者について②外来で受けられるケア③他施設から紹介があり受診までの流れ④温熱療法をしながら通院された症例等を報告しました。

「がんサロンに関わる理学療法士としての演題」では、当院の理学療法士で、がん経験者でもある一人から、がんサロンに関わるきっかけとなった自身の病気について、心の葛藤、病気の付き合い方などを発表しました。

また、がんサロンへ参加する意義として、会を通じてがん患者様・がん経験者やその家族と交流し、情報交換をすることが心の寄り添いの場になっている事、同じ気持ちを持つ者同士の癒しの場にもなり前向きな気持ちになる事など、経験したからこそわかる気持ちの変化などの話がありました。がんサロンに参加されている方からは「家族にも話せないことがここでは話せて気持ちが楽になった」「同じ病気の人の話が聴けて頑張ろうと思えるようになった」などの声も聞かれています。

特別公演は「まえだクリニック」の前田淳子先生から「私たちはどう連携するか」というタイトルで、地域で活動する医師としての役割について紹介がありました。

症例報告は、がんの患者様をICU（情報通信機器とMCS（医療介護専用コミュニケーションツール）というアプリを利用し、在宅で看取りを行った話がありました。

アプリを利用し、内服方法について患者様が質問され薬剤師が具体的な

説明と提案ができたことや、看護師が褥瘡の写真を送り、医師に経過報告を行っている事、また、ご家族から、「今は静かに寝ています。薬は飲まないと言いました」など、アプリを活用することで、タイムリーに情報が共有でき、症状緩和・不安軽減に繋がった話が印象に残りました。

アプリを活用し情報を共有すること
で、患者様やご家族が安心できる環境を作れることを学ぶ機会となりました。



ポリファーマシーって 知っていますか？

薬剤科 薬剤師 秀徳 優美

「ポリファーマシー」という言葉を耳にしたことがありますか？

ポリファーマシーとは、poly（複数）+ Pharmacy（薬剤）からなる造語になります。多くの薬を服用していること、有害事象や薬の飲み間違いや飲み忘れが多いなど、悪影響を及ぼすことを言います。六剤以上の薬を服用することで有害事象が増えるとの報告があります。しかし、数が多いことだけ

が悪いわけではありません。患者様の治療に必要な薬の数が、結果的に増えてしまっている場合もあります。必要以上に薬を服用していることが問題となります。「ここで言う「薬」は、医療機関でもらう薬のことだけでなく、市販薬や健康食品などにも注意が必要な場合があります。まずは、病気がことに異なる医療機関にかかっている場合は、薬が重複したり増え過ぎたりしないよう、お薬手帳などを利用して担当医師や薬剤師にご自身が使っている薬を正確に伝えましょう。

年齢とともに複数の病気を持つ人が増えていきます。病気の数が増え、受診する医療機関が増えることも薬の種類が増える原因となります。また、加齢とともに肝臓や腎臓などの機能が低下していくため、薬を処理する力が低下し、有害事象に繋がる場合があります。また薬同士が互いに影響し合い、効き過ぎたり、効かなくなったり、副作用が出てしまうことがあります。薬を飲んでいて「何かいつもと違うな?」「何か変だな?」と感じたら、医師や薬剤師に相談されてください。ただし、「お薬を減らす」ことは大事ですが、「お薬を使わなくて良い」ということではありません。患者様の病気や状態によって適切な薬の種類や数は変化します。単に薬の数が



適切だ「症状がないから要らないだろう」という判断が正しいとは限りませんので、自己中断してはいけません。

必要以上の薬を飲んでいる、不必要な薬を飲んでいる、同じような薬をたくさん飲んでいいるなどは、体にもお財布にも優しいとは言えないでしょう。「お薬の数が多くて管理しきれない」、「要らない薬を飲んでいないか心配」、「副作用が気になる」など、何かお困りのことがありましたら、ぜひご相談ください。

健診で早期発見・早期治療を

放射線科 診療放射線技師

桑原 宏典

皆様は健康診断を受けられていますか?健康な方ほど、「私は大丈夫だ」と自信をもっている方が多いのではないのでしょうか。日本人の三大死因は、がん・脳卒中・心筋梗塞です。最初のがんにつきましては、早期発見し、早い段階での治療が特に重要となります。

放射線科では、画像診断分野の検査を担っております。主に胸部のX線撮影、消化管や胃のバリウム検査、肺がんに対する胸部CT検査、脳動脈瘤や脳内評価のための頭部MRI検査及び乳がん検診マンモグラフィ(女性スナップが対応)を行っております。

当院放射線科は、二〇二三年十二月一日に、熊本市北区では初めてとなる

「マンモグラフィ検診施設画像認定」を取得しました。検査における写真の画質や品質管理、被ばく線量が基準値を満たし、さらに乳がん検診の質の高さを認められた施設にだけ認定されるものです。来院される方々が安心して検査を受けることができる検診体制を整えています。



この機会に健康診断を受けて自信を確信に変えてみてはいかがでしょうか。うか。お待ちしております。

義歯(入れ歯)を使用できなくなる時、卒業する時

歯科 歯科医師 溝上 太郎

今回、主に高齢者の方、要介護者の方にこのお話します。

義歯を使用している方が、少しでも長くその義歯を使って、おいしく食事を食べていくのが理想ではありません。しかし、残念ながらいつかは義歯の使用が困難となり、使用を中止すること

があります。では、いつまで義歯を使用することができるのか。どのような状態になれば義歯の使用を中止するよう勧めるべきなのか。歯科医師としてとても難しい判断です。

病棟の患者様から義歯を作製してほしいとの依頼は多くあります。しかし、色々な条件により、作製できない、作製しても適応できず使用してもらえなかったことがあります。

色々な条件とは、①本人の意志②今まで義歯を使用したことがない③寝たきりの状態④嚥下障害⑤非経口摂取⑥口腔内の廃用性変化の進行⑦認知症⑧オーラルディスプレイ(不随意運動)⑨原始反射(咬反射、吸啜反射)の存在など多数あります。



大根の酢の物 (2人分)

【材 料】・大根…50g
・人参…10g
*ゆずの皮…適量

【調味料】・米酢…7g
・砂糖…3g

作り方

- ①大根と人参をそれぞれ千切り、または、いちょう切りに切る。
- ②切った大根に塩をふる。人参は茹でておく。
- ③調味料を量り、合わせておく。
- ④大根から水分が出たら、軽く大根を絞っておく。
- ⑤大根と人参を③で和える。

*お好みで、千切りに切ったゆずの皮を入れると、一段と爽やかな風味がつけます。



ワンポイント

大根に塩をし、水分を出すことによって水っぽい味にならず、美味しく出来上がります。

旬の食材レシピ

栄養科

調理師リーダー
西澤 有紀

腸内フローラで病気の予防も習慣化

健診センター 保健師

國本 珠美

新型コロナウイルス感染症で世界中の人々に、アルコール消毒や手洗いで感染症を予防するという概念が習慣化されてきました。また、別の予防方法として、定期的な予防接種も行われています。

「免疫」は自然免疫と獲得免疫の大きく二つに分かれます。自然免疫とは生まれつき備わっている体に対する異物を攻撃する仕組みであり、獲得免疫とは予防接種など後天的に獲得する免疫のことを言います。

この自然免疫の全体の七割が腸管の中に免疫細胞として存在しています。腸内環境を整えて免疫を高めるといいます。腸管内には一千種類百兆個の多種多数の細菌が生息していることが知られており、その細菌の密集した様子がお花畑のように見えることから「腸内フローラ」と呼ばれるようになります。

では、腸内フローラのバランスを保ち健康を維持するとはどのようなことでしょうか。腸内細菌は主に善玉菌と悪玉菌、そのどちらでもない中間の菌と大きく分けて三つのグループが存在しています。「善玉菌」は免疫細胞と協力して異物の侵入や増殖を防いだりします。腸内フローラのバランスとはこの善玉菌が悪玉菌より多い状態を整えるということです。



善玉菌を増やすものとしては、発酵食品(例：ヨーグルト・乳酸菌飲料・納豆・キムチ・チーズ・味噌)などがあり、善玉菌を増やす助けになるものとして食物繊維(例：野菜類・豆類・イモ類・海藻類・きのこ類)やオリゴ糖(大豆・たまねぎ・ごぼう・にんにく・ねぎ・バナナ・アスパラガス)などがあります。

免疫機能をUPし、健康な生活を送るために、このような食品を積極的に摂る食事を習慣化することで、善玉菌いっぱい腸内フローラを目指していきましょう。



「冬の牛深ハイヤ大橋」天草市牛深町(看護師 松下 竜太)

「朝日野総合病院 公開講座」のお知らせ

★ごなたでも参加できます。
奮ってご参加ください！(参加費無料)

《日時》令和六年二月二十一日(水)

十三時～十四時

(受付：十二時開始)

《場所》朝日野総合病院

新北棟二階「さんぼーる」

健康講座

「帯状疱疹と帯状疱疹後神経痛」

講師：清水 直子 医師

(ペインクリニック内科・麻酔科)

参加方法

ご自由にご参加ください。

事前予約は不要です。

※当日体調の悪い方はご遠慮ください。

公開講座は毎月第三水曜日に開催！

日程：三月二十七日(水)

四月十七日(水)

◆公開講座の内容は、詳細が決まり次第、院内掲示板とホームページにてご案内いたします。

※都合により、変更になる場合もございます。

問い合わせ：〇九六一三四四二〇〇〇

(事務部 庶務課 今村まで)

作業療法士による自動車運転支援の取り組み

総合リハビリテーションセンター 作業療法士 里 昇龍

近年、高齢免許保有者の増加や病気を持つ運転者の重大事故に伴う道路交通法改正などにより、作業療法士が脳損傷者等の運転適性評価や再開支援を行う機会が増えています。仕事への復帰のためや、趣味や買い物・送迎などの役割として退院後の地域生活を送るうえで運転再開を希望される方は多く、自動車運転に対するニーズは現在も高止まっています。当院では入院中や外来の患者様で自動車運転希望がある方を対象に、作業療法士が中心となり安全に運転を再開できるかの判断や訓練をリハビリの一環として行っています。主治医や他職種、専門機関と連携し自動車運転再開支援を行っていますので、実際に当院で行っている自動車運転支援の流れを紹介させていただきます。



神経心理学的検査

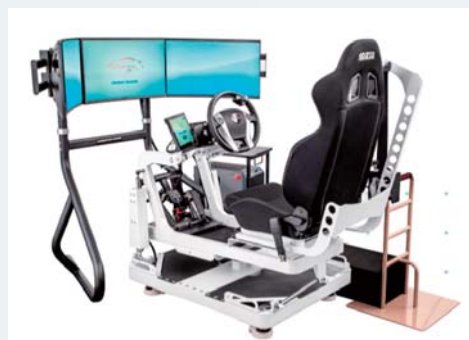


路上での実車評価

自動車運転支援の流れ

- セラピストによる聞き取り
主治医による運転支援が可能か否かの判断をもらい、運転の目的や運転状況の確認を行います。
- 神経心理学的検査や身体機能の検査
運転に必要な判断力や認知力などの項目を確認し、身体の機能と合わせて運転再開が可能か否かの判断を行います。
- 実際に運転し、運転能力の確認
連携している教習所にて教習コースや路上にて運転能力を確認しています。
- 公安委員会での運転可否の判断
作業療法士により評価した病気による脳の影響や身体の機能、教習所による運転能力の結果をもとに主治医が診断書を作成します。公安委員会では診断書の結果をもとに運転可否判断が行われます。

今年の2月中旬頃には作業療法室にドライビングシュミレーターの導入を予定しております。導入によって、運転に必要な基礎能力の確認をより正確に行うことができ、質の高い運転支援が可能となります。社会復帰を行う上でも自動車運転は非常に重要な支援項目であり、今後も患者様がより良い生活を過ごせるようにサポートしていきたいと思っております。運転に関して気になることがありましたら、お気軽に作業療法士へご相談ください。



トヨタ製ドライビングシュミレーター

「久山町研究版・健康十箇条」



病院長代理
清水 治樹
(脳卒中診療科)

昨年十一月、福岡県粕屋郡久山町で行われた、町と九州大学(第二内科)・久山町研究室の合同記念式典「ひさやま健診・研究の歴史と未来」に、研究室の関係者として参加いたしました。

本稿では、同町で一九六一年から継続して脳卒中・心疾患(心血管病)を中心に追跡している疫学研究「久山町研究」に関する総合的な基調講演の中から「健康十箇条」について記載したいと思えます。

- 一. タバコは吸わない
- 二. お酒はほどほどに
- 三. バランスのとれた食生活を心がける。野菜や果物は豊富に
- 四. 塩辛い食品は控えめに(高血圧の予防)
- 五. 適切な体重維持(糖尿病の予防)
- 六. 適度に運動、手足の筋力維持
- 七. 丁寧に歯をみがき、定期的に歯科受診
- 八. 外に出て人と会話
- 九. 定期的に健診をうけて、自分の

健康状態を知る

十. 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を

これらに補足的な解説をします。喫煙は脳卒中や心筋梗塞の原因となるだけでなく、肺がん・喉頭がん・胃がんの危険因子となり、すべての病気の死亡リスクを上げます(特に男性)。食事内容に関しては、大豆・大豆製品、緑黄色野菜、海藻類、牛乳・乳製品、魚を増やし、一方でお米、お酒を減らすことは推奨されています。植物性たんぱくを多く摂ると脳梗塞が、動物性たんぱくを多く摂ると脳出血のリスクが下がることが判明しており、バランスの良い食事が大切な理由の一つとなります。また、食物繊維を多く摂ると、糖尿病の発症リスクが下がる結果となっています。

急な肥満は心血管病が増えるというデータが得られています。また、早食いは肥満のリスクを一・八倍に増加させます。握力は全身の筋力を反映していると考えられ、握力が強い人ほど死亡リスクが下がります。自分の歯の本数が少ない人ほど、認知症の発症が増えることが確認されています。気分の落ち込み(情緒的孤独感)は認知症の誘因になるとされ、周囲の親族や友人となるべく接することは、その予防に繋がると考えられます。

以上の十箇条、当たり前のような事ばかりですが、すべて久山町研究の追跡データから得られた知見(エビデンス)を基にしており、説得力が大きいのではないかと思います。

令和5年度 第2回 救急症例検討会

庶務課 課長 紫垣 佳孝

令和5年11月26日(水)午後6時より、朝日野総合病院 新北棟2階多目的ホール「さんぼーる」において今年第2回目の救急症例検討会を対面式で開催いたしました。

この研修会には地域の救急隊14名、当院からは医師・薬剤師・看護師など関係職員66名、合計80名の参加で、症例発表と検討をテーマに開催されました。

救急隊からは1症例提示していただき、当症例に対して当院担当医の伊藤院長補佐から症例説明と転帰、疾患のレクチャー、救急隊からも質問があり症例を通じてより理解が深まる内容でした。

また清水病院長代理からは救急で搬送された症例について詳しく紹介され、救急医療対応で重要なポイントなど解説、救急隊からも多くの質問があり有意義な時間の共有ができました。

会終了後、救急隊と当院職員とのフリーディスカッションが生まれ、当院からは救急隊へ日頃お聞きしたい質問など、また救急隊からは病

院に対して対応してもらいたいことなどが発議され、活発な論議となり、お互いに貴重な時間となりました。

これまでコロナウイルス感染症で対面式での講演会・勉強会・研修を含め自粛してきましたが、今後は感染対策を継続しながら当会のような勉強会を通じて救急隊とのコラボレーションを更に強化し、地域の救急医療に貢献できる病院であり続けたいと考えております。



朝日野総合病院 外来担当医表 令和6年1月現在

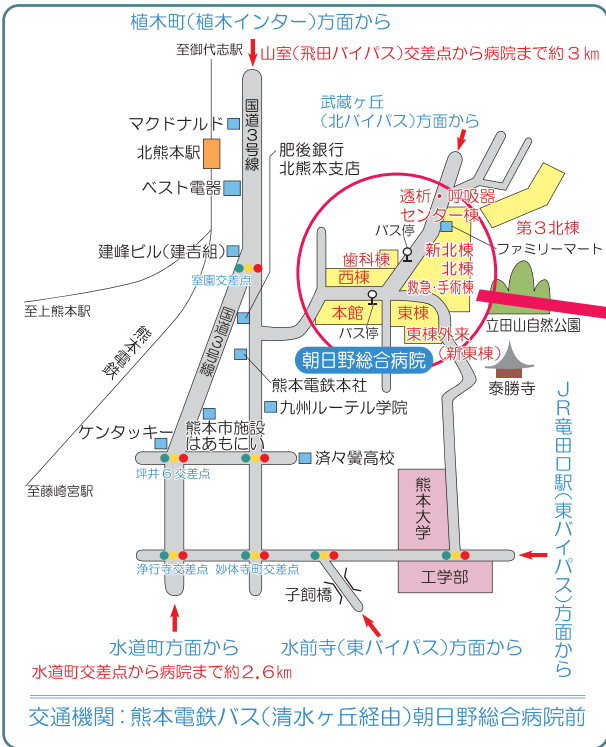
救急外来: 救急患者は24時間・365日

※都合により担当医が変更となる場合がございます。

施設	診療科目	曜日	月	火	水	木	金	土	
救急・手術棟	一般外科 消化器外科 血管外科 呼吸器外科 総合診療科 肛門外科	午前	土井口 幸 河野一朗 (片瀨 茂) (柴田 浩)	片瀨 茂 柴田 浩(総合診療科) (土井口 幸) (河野一朗)	土井口 幸 河野一朗 柴田 浩(内視鏡検査)	片瀨 茂 柴田 浩(総合診療科) (土井口 幸) (河野一朗)	片瀨 茂 河野一朗 (土井口 幸) (柴田 浩)	【午前外科外来】 土井口 幸 柴田 浩(第1・3) 芹川和志(第3) 【午前内科外来】 第1~5 木脇祐聡 第2 上野満徳(熊大血内) 第4~5 中村朋文(熊大血内)	
		午後	※手術日 土井口 幸 河野一朗 (柴田 浩)	片瀨 茂 土井口 幸 (河野一朗) (柴田 浩)	※手術日 土井口 幸 河野一朗 (柴田 浩)	片瀨 茂 土井口 幸 (河野一朗) (柴田 浩)	(土井口 幸) (柴田 浩)		
	形成外科 皮膚科 ※受付は午前11時まで	午前	原田美穂	※手術日	原田美穂	原田美穂(第2・4)	原田美穂		
	皮膚科 ※受付は午前11時30分まで	午前		持永詠子		持永詠子(第1・3・5)			
	脳卒中診療科	午前	清水治樹	清水治樹	清水治樹	清水治樹	清水治樹		
	緩和ケア外来 ※原則予約制	午後		片瀨 茂					
	小児ハビリテーション科	午前				清水治樹			
東棟外来	麻酔科	午前	河野一朗	河野一朗 清水直子 東 兼充(PM)	河野一朗 清水直子	河野一朗 清水直子 東 兼充(PM)	河野一朗 清水直子		
		午後	清水直子				清水直子		
	整形外科	午前	前川清継 浦田伸一 辻 王成 (野村一俊) (岡元 勉) (堀 友宏)	前川清継 岡元 勉 (野村一俊) (浦田伸一) (堀 友宏)	野村一俊 辻 王成 堀 友宏 (岡元 勉) (浦田伸一)	前川清継 岡元 勉 浦田伸一 (野村一俊) (辻 王成) (堀 友宏)	野村一俊 辻 王成 堀 友宏 (岡元 勉) (浦田伸一)	岡元 勉 堀 友宏	
		午後	※手術日 (野村一俊) (岡元 勉) (浦田伸一) (辻 王成) (堀 友宏)	※手術日 (野村一俊) (岡元 勉) (浦田伸一) (辻 王成)	※手術日 (野村一俊) (浦田伸一) (辻 王成) (堀 友宏)	※手術日 (野村一俊) (浦田伸一) (辻 王成) (堀 友宏)	※手術日 (野村一俊) (浦田伸一) (辻 王成) (堀 友宏)		
	骨粗鬆症外来 ※完全予約制	午前		辻 王成					
ペインクリニック内科	午前	清水直子		清水直子	大津哲郎	清水直子			
脳神経外科	午前		熊大脳神経外科 (第1・3・5)				久留米大脳外		
本館	一般内科 呼吸器内科 総合内科 リウマチ内科 血液内科 循環器内科 神経内科 心療内科	午前	清川哲志 伊藤清隆 新堀俊文 千住みどり (島津和泰) (緒方康博)	木山程荘 島津和泰 緒方康博 千住みどり (清川哲志) (伊藤清隆) (新堀俊文)	木山程荘 清川哲志 依田恵(熊大神経内科) 第1・3 上野満徳(熊大血内) (伊藤清隆) (新堀俊文)	清川哲志 新堀俊文 千住みどり (伊藤清隆) (島津和泰)	伊藤清隆 緒方康博 千住みどり (清川哲志) (島津和泰) (新堀俊文)	「救急・手術棟」 にて診療	
		午後	島津和泰 緒方康博 千住みどり (清川哲志) (伊藤清隆) (新堀俊文)	新堀俊文 緒方康博 (清川哲志) (伊藤清隆) (島津和泰)	伊藤清隆 (清川哲志) (新堀俊文)	島津和泰 千住みどり (清川哲志) (新堀俊文)	木山程荘 緒方康博 (清川哲志) (伊藤清隆) (島津和泰) (新堀俊文)		
	腎臓内科	午前	古閑博子	伊東磁郎	木脇祐聡	古閑博子	伊東磁郎	木脇祐聡 (救急・手術棟にて診療) 村上 稔	
	放射線科	午前 午後	村上 稔	村上 稔	村上 稔	村上 稔	村上 稔	村上 稔	
	リハビリテーション科	午前 午後	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
	西棟	糖尿病・代謝内科	午前 午後	加生雅也	加生雅也	加生雅也	加生雅也	加生雅也	
		耳鼻咽喉科	午前 午後	湯本英二	湯本英二 菅村真由美	菅村真由美	※手術日 湯本英二 菅村真由美	湯本英二 菅村真由美	
乳腺・内分泌外科 嚥下外来 ※完全予約制		午前 午後	後藤理沙				湯本英二 菅村真由美		
棟	眼科	午前 午後	行徳泰宏	行徳泰宏	行徳泰宏	行徳泰宏	行徳泰宏	行徳泰宏	
	泌尿器科	午前 午後	川畑幸嗣		川畑幸嗣		川畑幸嗣		
	婦人科 ※婦人科外来は当直休診	午前		担当医 検診のみ(完全予約制)	担当医 検診のみ(完全予約制)	担当医 検診のみ(完全予約制)			
健診センター	午前	近藤圭一郎 西村龍一	近藤圭一郎	近藤圭一郎 緒方さつき	近藤圭一郎 菅 正康	近藤圭一郎 緒方さつき	担当医		
透視・ 心臓器 棟	人工透析センター	午前 午後	伊東磁郎 古閑博子 木脇祐聡	伊東磁郎 川畑幸嗣 (木脇祐聡)	伊東磁郎 木脇祐聡	川畑幸嗣 古閑博子 (木脇祐聡)	伊東磁郎 古閑博子	川畑幸嗣・木脇祐聡 熊大泌尿器科医師(第1) 盛 三千孝(第2・4) 出口隆志(第3・5)	
北棟	温熱療法 高気圧酸素療法 ※完全予約制	午前 午後	川畑幸嗣	川畑幸嗣	川畑幸嗣	川畑幸嗣	川畑幸嗣		
歯科棟	歯小児歯科 歯科口腔外科 (インプラント治療)	午前 午後	酒匂賢一 溝上太郎	酒匂賢一 溝上太郎 竹下尚志(熊大歯科 口腔外)	酒匂賢一 溝上太郎	酒匂賢一 溝上太郎	酒匂賢一 溝上太郎	溝上太郎 前城 学 (第1・3・5) 熊大歯科 松岡祐一(口腔外) (第2・4)	

○ 診療時間：月～金 9:00～12:30 13:30～17:30 土 9:00～12:30 ※ () は特別診療 ※ 赤字は女性医師
 (歯科：月～金 9:00～12:30 13:30～17:30 土 9:00～12:30) (外来リハビリ：月～金 9:00～13:00 14:00～17:30 土 9:00～12:30)
 専門外来担当医：甲状腺外来(月・金 午前) 河野一朗, 脳卒中外来(月～金 午前) 清水治樹
 女性専門外来・ストレス外来(男女)(月・木 午後) 千住みどり

朝日野総合病院への行き方及び駐車場のご案内



健診センターのご案内

健診センター長
近藤 圭一郎

西棟 2 階の健診センターでは、皆様の健康管理のお手伝いをしています。是非ご利用下さい!

健診コース

- ・人間ドック(宿泊コース・日帰りコース・心血管病コース)
- ・生活習慣病予防健診
- ・定期健康診断
- ・一般健診
- ・特定健康診査、特定保健指導
- ・乳がん・子宮がん検診
- ・胸部CT検査・頭部MRI検査

※各種オプション検査、
診断書発行等も
行っております。

月曜～金曜 午前 8:00～12:00
午後 13:30～17:30
土曜日 午前 8:00～12:00

ご予約・お問合せ先

TEL 096-341-5075 (直通)
担当/臼杵 お気軽にお問合せ下さい。



医療法人 朝日野会 **朝日野総合病院**

救急告示指定(二次) 病院長 野村一俊 名誉院長 前川清継
国土交通省 病院長代理 清水治樹 常任顧問 湯本英二
短期入院協力病院 院長補佐 片刈茂・清川哲志・伊藤清隆・土井口幸
※曜日毎の担当医などの詳細は7ページをご参照下さい

病床数378床

駐車場650台

〒861-8072 熊本市北区室園町12番10号

TEL.096-344-3000

FAX.096-343-7570

https://www.asahino.or.jp/ 朝日野会 検索

患者様の人格が尊重され、より良い医療が提供されるよう、私たちは以下の権利と責務を患者の皆様が有することを確認します。

患者様は、身分、年齢、性別、障害の有無などにかかわらず良質な医療を適切かつ公平に受ける権利があります。

患者様は、人格を尊重され、個人情報やプライバシーを守られる権利があります。

患者様は、診療について、分かりやすく十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。

患者様は、治療計画を理解し、自己の意思で選択し決定する権利があります。

患者様は、診療に必要な自身の健康状態を正確に医療提供者に伝える責務があります。

患者様は、良い医療環境を共有するため、病院の規則を守る責務があります。

あ
と
が
き
編
集
委
員

新春のお喜びを申し上げます。皆様は新年を迎え本年の目標など決められたでしょうか?私も自分自身の『あるべき姿』になれる事を目標に1年間取り組んで参りたいと思います。(Y.S)

発行日/令和6年1月1日
発行責任者/野村一俊
編集委員/清水陽行・紫垣佳孝
発行所/朝日野総合病院
印刷所/(株)みどり印刷社